

いのかしら

NO. 587
武蔵野市立井之頭小学校
令和4年9月30日



「互いを認め、高め合う」

副校長 大澤 史典

5年生は9月22日から27日まで、長野県飯山市に5泊6日のセカンドスクールに行ってきました。前半は雨天が続きましたが、後半は見事に晴れ渡り、予定したプログラムをすべて無事行うことができました。

今年で本格実施27年目を迎えたセカンドスクールですが、「わが子をセカンドスクールに行かせるために武蔵野市に住んでいます。」というご家庭があるくらい、武蔵野市の大きな取組の一つとなっています。今回、私自身も初めてセカンドスクールに引率しましたが、豊かな自然に囲まれながら、のびやかに活動する子供たち、温かくときには厳しく、愛情深く子供たちに接する宿のお父さん、お母さん、そしてこまやかに子供たちへの指導、支援を行う教員や指導員の姿を見て感動しました。

「互いを認め、高め合う」という言葉は、本校のセカンドスクールのねらいの一つです。セカンドスクールでは、6日間に渡り寝食を共にしながら対話や協働を繰り返す中で、友達への理解が深まり認め合うことができます。さらにお互いのよさにも気付くことができます。「楽しく充実したセカンドスクールにしよう」という思いと友達のよさに憧れる気持ちが「高め合う」につながっていくのだと思います。

10月には運動会、11月には音楽会と大きな行事が控えています。これらの行事でも子供たち「互いを認め、高め合う」というPricelessな経験ができるよう取り組んでまいります。



運動会に向けて



体育主任

今年度の運動会は、昨年度と同様に午前中の開催となります。主な種目は、徒競走と表現運動です。保護者の方の参観は入れ替え制で行い、校庭に入る人数を制限した中で行う予定です。徒競走と表現運動ともに児童1名につき、2名まで参観可能です。詳しくは、本日配布のプリントをご覧ください。

運動会に向けては、9月中旬から6年生を中心に昨年度の経験を基にしながら、全校で運動会を楽しむために何がしたいか、何ができるか話し合い計画を立てています。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な制約がありますが、運動会を成功させるためにも、保護者の皆様にはご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。



10月の目標

- | | |
|----|-----------|
| 生活 | 外でなかよく遊ぼう |
| 保健 | 目を大事にしよう |
| 給食 | よくかんで食べよう |

鶇（ヒヨドリ）

留鳥、または漂鳥。北海道では夏鳥として大きな群れとなり海峡を渡る。騒がしい鳴き声や、羽ばたき上昇しては翼をたたみ滑空する大きな波状飛行から、すぐにこの鳥と分かる。国内ではどこでもよく見かけるが、他の地域における生息数は少なく、この鳥を見るために日本に来るバードウォッチャーも多いらしい。虫類や木の実も食すが、花の蜜や熟れた果実なども好んで食す甘党の鳥である。

学年の様子

3年生【お店で働く人々の学習】

社会科「お店で働く人々の学習」では、スーパーマーケットの店長さんから、働く人々の工夫や努力などについて、お話をいただきました。普段見ることができないお店のバックヤードの秘密や、売り手側の思いと工夫について知ることができ、子供たちは関心をもって聞いていました。また、たくさんの質問に丁寧に答えていただき、充実した時間となりました。



5年生【セカンドスクール】

9月22日～27日に、セカンドスクール（長野県飯山市戸狩）に行きました。稲刈りや脱穀、郷土料理作りを行ったり、飯山の自然や歴史にふれたりして、多くのことを学びました。5泊6日と長い宿泊行事でしたが、友達同士協力し合いながら、実りある日々を送ることができました。



10月の行事予定



日	月	火	水	木	金	土
						1
2 探鳥会	3 月曜まなべえ	4 プレセカンドスクール事前検診(4)	5 プレセカンドスクール(4) 水曜まなべえ	6 委員会活動	7 →	8
9	10 スポーツの日	11 避難訓練	12 午前授業	13 午前授業 就学時健診	14 遠足予備(1)	15
16	17 月曜まなべえ	18	19 水曜まなべえ	20 運動会係児童打ち合わせ (4年生の応援団、5.6年)	21	22
23	24	25 運動会全校練習 演劇鑑賞教室(3)	26	27 運動会全校練習 運動会係児童打ち合わせ (4年生の応援団、5.6年)	28 運動会前日準備 1～5年生 4時間授業 6年生 5時間授業	29 運動会 12:30 下校
30	31 振替休業日	1	2 遠足(2)	3 文化の日	4 水曜時程 避難訓練	5

○派遣相談員来校日

7日・13日(木)・21日・28日 毎週金曜日

○都スクールカウンセラー来校日

4日・13日(木)・18日・25日 毎週火曜日

※相談をご希望の方は、ご希望の日程を連絡帳にて、担任までお知らせください。もしくは、スクールカウンセラーの出勤日にお電話をください。

道徳授業地区公開講座

9月10日（土）学校公開にあわせて道徳授業地区公開講座を実施しました。1・2・4校時は各学年で道徳の授業、3校時には体育館で「スマホ、もっと自由に使わせて～覚悟と責任、ルールと自主性～」と題し、東京都教育委員会作製のビデオを視聴し、グループに分かれ意見交換会を行いました。50名近い方にご参加いただき、活発な意見交換ができました。ありがとうございました。

以下、意見交換会で出たご意見から一部を載せました。各ご家庭でお子さんと話し合うきっかけにしていいただければ幸いです。

◆道徳授業地区公開講座 意見交換会でのご意見から（抜粋）

- ・スマホは、子供が欲しがったわけではなく親から渡した。渡し始めた理由は、両親ともに仕事で連絡ツールとして欲しかったから。
- ・最初からスマホを渡すのではなく、段階を踏んで渡した。
①キッズケータイ➡②共有I P A D ➡個人持ちのスマホへ
- ・新しいデバイスは、使いこなせるようになった方が良い。
慣れて使いこなせる子になるのも大切。
- ・小学校6年の子の卒業時に渡したが、それは良くなかったと感じている。渡す時期は大切。卒業時は、スマホブームのようになり、子供のトラブルが増えやすかった。
- ・トラブルにあったことで、スマホの使い方について子供としっかり話し合った。その後は、子供自身が気を付けて使用している。
- ・トラブルが起きるからスマホを持たせないのではなく、トラブルが起きたら相談に乗りながら解決し、使用していく方が良い。
- ・子供のスマホは親のスマホであり、「貸しているよ、渡しているよ」というスタンスとする。そのため、パスワードの設定は親がしている。
- ・ルールを決めたり制限をしたりしても、守ることがなかなか難しい。それよりも、教えてなくてもどんどん理解して使いこなす子供から保護者が使い方を教えてもらうことで、コミュニケーションをしっかりととり、危険な使い方につながらないようにしている。
- ・Youtube やS N Sは中毒性があり、子供にダメという方が難しいのではないかな。
- ・各家庭でルールが違うので、友達ができることが自分はできないと友達関係を心配する子供がいる。
- ・使用前は、スマホが手に入る嬉しさが勝り、「ルールはきちんと守る」と約束できる子供は多い。しかし、知識が増えると「もっと〇〇したい」と主張することがある。これを自主性ととらえ、尊重することも大事だが、判断能力に欠けている小学生には、正しい判断ができるよう保護者の導きやある程度の制限が必要である。
- ・頭ごなしに禁止するのではなく、同じ目線で考え、「やって良いことや・ダメなこと」を話し合いながら決定していくのが大切。
- ・高学年になりいきなりルールを設けるのではなく、低学年のころからどのような使い方をするべきものなのか伝えて、段階的な教育をしていく。



9月10日に開かれた学校づくり協議会が行われました

学校から1学期の重点的な取組と振り返り、2学期の取組についてご説明しました(一部ご紹介します。)

<教務>

- ・ 「問い掛け」を大切にした授業や、学び合いの場を設定するなど、互いに高め合う学習ができるように工夫してきた。「自分で考えて行動する」ことを、学習や生活の中で常に児童に声掛けしている。
- ・ 地域コーディネーターに協力を依頼し、地域めぐりや町探検など、地域の教育力を活用し実施した。
- ・ クリーンセンターの見学や安全マップ作りでは、保護者の協力を得て、安全で充実した学習を進められた。2学期はミシンの学習（6年）などで保護者に協力を呼び掛けていきたい。

<生活指導>

- ・ 学習者用コンピュータの扱いについて、よさと同時に課題も見えてきている。デジタルシチズンシップの観点から児童が主体的に扱い方を考え実践するよう、代表委員会が中心となって児童主体でルールを話し合って作っているところである。
- ・ 学校全体でコロナ感染予防、熱中症対策に努めている。体育や休み時間の校庭の活動ではマスクを外すよう呼び掛け、熱中症指数を計測し高いときは外での活動は行わないようにしている。

<経営支援>子供たちの多様性の理解を深めるために、以下の取組を行っている。

- ・ 1年生児童に向けて➡理解啓発授業を実施。（9月）
- ・ 2年生児童に向けて➡朝の会を活用した、理解啓発活動を予定。特性や多様性への理解を深める動画またはパワーポイントの資料を作成し、クロームブックを活用した実施を予定。
- ・ 3年生児童に向けて➡理解啓発授業を実施。（7月）
- ・ 全校の保護者向け➡学校でのユニバーサルデザイン実践の取り組みや特別支援教室の指導内容を保護者に紹介する「かわせみ通信」を発行開始。
- ・ 教職員向け➡「特別支援教育だより臨時号」を発行。校内で実践されているユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境・授業作り例を紹介していく。

意見交換会 いくつかの話題について意見を交換しました。(一部ご紹介します)

～宿題の内容や量について～

- ・ 宿題をその子にあった量にするのは良い。保護者に丁寧に説明していくことが必要。
- ・ 一律の宿題がなくなるのは賛成だが、すべてお任せではなく、低学年のうちは3パターンぐらいの宿題から子供が自分で選ぶやり方がいいのでは。

～毎年の学級編成について～

- ・ 毎年新しい先生や友達と関われるというのは新鮮でよい。
- ・ 人間関係が広がる、担任との関係が固定化しすぎない、転校生が入ってきたときに受け入れやすい等、4年生ぐらいまではメリットがあるのでは。
- ・ 先生の負担はどうか？

～生活の決まりの見直しについて～

- ・ 学校の持ち物について、学校で考えて決まるのはいいと思う。
- ・ 学習がきちんと行える、ルールが守れるなら、持ち物は家庭に任せてもよいのでは。
- ・ 水筒の中身は、その子の体質にあったものを家庭で判断の方がよいのでは。

～学習発表会の検討（令和6年度以降）～

- ・ 学芸会がないと寂しいという声を聞くときがある。
- ・ 今は各教科で表現力が養われている。学芸会で表現力を高めるという役割を終えたのでは。
- ・ 学習発表会の形式にしていけるとよいのでは。